

“年代測定総合研究センターの将来展望”に対する自由討論”、ならびに“名古屋大学タンデトロン加速器質量分析計学内共同利用に関するアンケート結果”のまとめ

南 雅代

名古屋大学年代測定総合研究センター

昨年度（平成 18（2006）年度）には、センター設立から 7 年間の研究教育活動を総括し、今後に取り組む課題を検討するために、年代学研究を専門とする外国人研究者 5 名と日本人研究者 2 名による外部評価、ならびに自己点検・評価を実施し、3 月に外部評価・自己点検評価報告書「年代測定総合研究センター 外部評価・自己点検評価報告書-最先端の地球年代学研究を推進-」を発刊致しました。今年度（平成 19（2007）年度）の年代測定総合研究センターシンポジウムでは、この外部評価を受けて、「年代測定総合研究センターの将来展望」という題目で、自由討論を行いました。また、活発な共同利用を目指すため、共同利用者の方々に「名古屋大学タンデトロン加速器質量分析計学内共同利用に関するアンケート」を実施致しました。そのまとめを以下に記します。

自由討論“年代測定総合研究センターの将来展望”における討論

まず、はじめに、今年度年代測定総合研究センター運営委員の一人である田中剛教授から、昨年度に行った外部評価・自己点検評価における外部評価委員の方々の意見を総括した上で、よりよいセンターの将来展望として、

1. 装置維持支援： ○○研究所の電気技術者
2. 有料化： 先ずは疑似通貨による評価
3. ユーザー： 面白い研究試料を持ち込む

という提案をいただきました。1.の装置維持支援に対しては、昨年外部評価委員の方々からも特に指摘が強かった点であり、今回の自由討論の中でも、学生、PD など、装置を運転できる技術者を育てていく努力が必要ではないか、という意見が出されました。今後の当センターの将来を考えると、装置維持を担う技術者が不可欠であり、早急に手を打つ必要があります。2.の有料化に関しては、昨年度から、運営交付金だけでなく、科学研究費補助金による利用料金の支払いも可能になっており、当センターとしても、共同利用の実績を上げると同時に、“自ら稼いでいく”姿勢が求められています。3.に挙げられているように、ユーザーの方々が、面白い研究試料を持ち込んで、活発な共同利用をしていただけることを切望する次第です。以下に、田中運営委員のパワーポイントのファイルを参考までに示しておきます。

年測センターの将来展望：運営委員から

• より良いセンターとして長続きするために：

外部評価・自己点検評価報告書 平成10年3月

- ロバート・シュナイダー 博士
- ウオルフガング・クレッチマー 教授
- 今村肇雄 教授
- 小林純一 助教授
- 柴田康行 主任研究員

外部評価・自己点検評価報告書 平成19年3月

- キム キューハン 教授
- 板谷徹丸 教授
- テイモシー・ジェル 教授
- ウィリアム・キーザー 教授
- ウオルフガング・クレッチマー 教授
- マドハバ・サントシュ 教授
- 米田 穰 助教授

外部評価委員の主な意見／提言

- ○ロバート・シュナイダー 博士：機器の保守と試料の準備と測定
常勤研究者 6名が必要。DB公開。有料化の手順
- ウオルフガング・クレッチマー 教授：国際性豊。試料処理1-2名必要
- 今村肇雄 教授：外国研究者への開放と全国共同利用への展開
- 小林純一 助教授：教育活動への開放/広い分野との交流を評価
- 柴田康行 主任研究員：試料調製体制/スタッフの整備
- キム キューハン 教授：優秀なPD学生の確保、海外研究者への研修
- 板谷徹丸 教授：¹⁴C法とCHIME法の時間間隙を埋める手法の整備
- テイモシー・ジェル 教授：高電圧システムに長けた技術者
- ウィリアム・キーザー 教授：常勤技術職員の増員と定期補修プログラム
- ウオルフガング・クレッチマー 教授：装置トラブルへの支援が必要
- マドハバ・サントシュ 教授：CHIME サポート技術者
- 米田 穰 助教授：外部からの測定受託とそのための人員増強

提案

- 装置維持支援 ○○研究所の電気技術者
- 有料化 先ずは疑似通貨による評価
- ユーザー 面白い研究試料を持ち込む

その他、自由討論においては、当センターで教育を受けている修士後期課程の学生から、センターとしての方向性が見えないために閉鎖的に見られている可能性がある、センターでは現在どのような研究・教育が行われているかという情報公開が必要であり、具体的な例として、当センターで測定された ¹⁴C データを用いてどのような研究が行われているのかをもっと積極的に公開すべきである、との意見が出されました。当センターは学内共同使用施設であるとともに、センター教員は、名古屋大学大学院環境学研究科の協力教員（地球環境学専攻地球史学講座を担当）でもあり、年代学教育を担っています。今後、当センターが行っている研究・教育を広く情報公開していくことが求められており、ウェブページの充実、パンフレット等の配布などを積極的に行っていく必要があると考えられます。

今回、初めての試みとして、ユーザーの方々との自由討論を行って見ましたが、活発な議論がなされ、センターの将来を考える上で非常に有意義であったと感じます。今回、多くの方からいただいた意見を大切に、よいところはさらに伸ばし、反省すべきところは反省し、改革すべきところは改革して、今後のセンターの益々の発展を目指していきたいと思えます。

名古屋大学タンデトロン加速器質量分析計学内共同利用に関するアンケート結果

活発な学内共同利用のために役立てようと、学内共同利用者にアンケートを取った結果を以下に示します。アンケート内容はあらかじめ学内共同利用者の方々にメールでお送りし、シンポジウムの会場にもアンケート用紙を用意しておきましたが、こちらの周知不足もあり、12枚しかアンケート用紙の回収ができませんでした。しかし、回答していただいたアンケート内容から、当センターの学内共同利用状況についてユーザーの方々がどのような意見を持っているかについてかなり知ることができます。以下に、アンケート結果を示します。() 内の斜体の数字は、その項目に○を付けた人の数を表しています。

-----アンケート結果-----

●共同利用時の状況

1. 共同利用研究分野

地球化学 (5)

環境学 (3)、考古学 (2)、文化財科学 (2)、農学 (1)、その他 (1) (宇宙線学)

2. 依頼したのは?

^{14}C 年代測定 (10)

^{14}C 濃度測定 (3)

3. 試料調製を行ったのは?

PD (4)

教員 (3)、博士学生 (3)、修士学生 (3)、学部学生 (3)、センターに依頼 (1)

4. 試料調製を指導したのは?

センターの教職員 (5)

研究グループ教員 (3)、研究グループ先輩 (2)、センターの学生 (2)、その他 (1)

●共同利用申請について

1. 申請回数

現状でよい (8)

変更を希望 (3) (2人が2回/年と提案)

2. 申請時期

現状でよい (9)

変更を希望 (2) (“早めの時期”、“4月と10月”と提案)

3. 審査結果の連絡時期

現状でよい (6)

より早い時期を希望 (3)、各期が始まる前に必要 (2)

●試料調製室システムについて

1. 予約開始時期

現状でよい (7)

変更を希望 (4) (2人が“2ヶ月前から”、1人が“2週間前から”と提案)

2. 予約方法

HP予約にして欲しい (6)

現状でよい (5)

(“ネットで予約がとれなくても、予約状況を WWW で確認できると便利”、“2-3 ヶ月前からの仮予約。先着順ではなく、先約の方へ日程の調整が依頼できるような仕組み。予約のキャンセルの迅速な反映” という意見有り)

●試料調製室の使用体制

1. 実験室の使用時間

土日でもできれば使用したい (6)

現状 (平日の 9 時~5 時) でよい (3)

変更を希望 (3) (“19 時まで”、“8:30~18:00”、“9 時~20 時” という意見有り)

2. 実験室が使用できない時 (ラインの故障等) の連絡体制

HP 公開を希望 (9)

現状でよい (2)、個別連絡を希望 (2)

3. 使用器具 (ピーカーやガラス管など)

現状でよい (7)

ユーザー専用を希望 (4)

4. 荷物置き場

ユーザー専用を希望 (5)

現状でよい (4)、その他 (1)

(“専用でなくともよいが、作業用の試料を置く棚があるとよい”、“試料調製室が汚い、変なものがあって物が置けない” という意見有り)

5. 白衣、カードの貸与体制

現状でよい (9)

変更を希望 (1)

●タンデトロン加速器質量分析計による測定、およびその結果連絡状況について

1. ターゲットを提出してから測定結果を受け取るまでの期間

より早いほうがよい (9)

現状でよい (2)、より遅くてもいい (0)

2. 申請者への測定予定日の連絡

必要である (9)

特に必要ない (2)

3. マシンタイムおよび測定進行状況の公開

HP などによる公開を希望 (7)

現状でよい (3)、個別連絡を希望 (1)

4. マシンが使用できないときの連絡体制

HP などによる公開を希望 (9)

個別連絡を希望 (3) (“悪いニュースは早く欲しい” という意見有り)、現状でよい (1)

●その他

1. 報告書の PDF 化および HP への掲載

PDF 化、掲載に賛成 (10)

PDF 化のみに賛成 (1)、PDF 化、掲載に反対 (0)

(“ネットで無制限に公開するのではなく、欲しい人からの連絡を受けて PDF ファイルを送

- 信する形式はどうか” という意見有り)
2. センターを利用する理由
高精度な結果が得られるから (7)
 センター-教員との共同研究だから (4)、学内で便利だから (3)、価格が安いから (0)
 3. センターへの希望
測定の高精度化 (4)、指導の充実 (4)、グローバルな研究活動 (4)
 社会への貢献 (3)、器具・備品の充実 (2) (“Finnigan MAT252 の PC の更新をして欲しい” という意見有り)、現状でよい (1)

「報告書の PDF 化の要望が強い。センターを利用する理由も、センターへの希望も “高精度な測定” にあると思われる」

●当センターに対するご意見・ご要望

1. より詳しい run data をいただきたいです。日毎ではなく、0.1s、1s 値で、安定同位体比や ^{14}C カウント値が欲しいです。
2. ホームページ検索で、うまく引かかるようなキーワードなどをつけて、なるべくネットで引かかるように工夫するとよいと思います。

以上のアンケート結果から、①共同利用申請状況に関しては、概ね、現状でよいとの意見が多い、②試料調製システムに対しては、現在の第 1 実験室にあるホワイトボードへの書き込み式ではなく、ウェブによる予約方式を実現して欲しいとの要望が強い、③試料調製室の使用体制に対しては、土日の使用、ウェブによる連絡体制の整備、ユーザー専用の荷物置き場の設置、に関する要望が見られる、④測定結果を早く受け取りたいという要望とともに、マシンの故障等を含めた測定状況の公開を望んでいる傾向が強い、ということが伺えます。ウェブによる試料調製システムの予約方式に関しましては、現在、センター内での仮運用を開始し、問題がなければ、来年度から学内で運用する予定にしております。第 1 実験室から離れた所にいるユーザーにとっては、試料調製システムの予約のためだけにわざわざ出向くのは大変であり、このウェブによる予約方式が学内共同利用状況の向上に役立つことを期待しております。また、 ^{14}C 測定状況 (測定予定日や測定進行状況) 開示を希望している声も多く、今後、この点に関しても前向きに検討して行きたいと思っております。今回、残念ながら、回収枚数が少なかったために、もっと多くの学内共同利用者の声を聞く必要があると思われます。活発な学内共同利用のために、是非とも、みなさまのご意見をお寄せ下さい。